

週刊

GAINAX総監修ビジュアル・ガイドブック

新訂版

EVANGELION

CHRONICLE

エヴァンゲリオン・クロニクル

19

定価 **690**円(税込)

2010/6/15

Mechanic Sheet

第2使徒リス

Character Sheet

相田ケンスケ

Tactics Sheet

第2次ジオフロント
攻防戦

Timeline Sheet

四人目の適格者

Technology Sheet

エヴァンゲリオン
量産機

Extra Sheet

用語辞典／企画書／
トピックス



限定
フィギュア
締切り迫る
!!!

DEAGOSTINI

インターネットで
パーツワークをより楽しむ deagostini.jp

EVANGELION

CHRONICLE

19

目次 | C O N T E N T S

Mechanic Sheet メカニックシート	第2使徒リリス	01-04
Character Sheet キャラクターシート	相田ケンスケ	05-08
Tactics Sheet タクティクスシート	第2次ジオフロント攻防戦	09-12
Timeline Sheet タイムラインシート	四人目の適格者	13-16
Technology Sheet テクノロジーシート	エヴァンゲリオン量産機	17-18
Extra Sheet エクストラシート	用語辞典	19-22
	企画書	23-26
	トピックス	27-32

新世紀エヴァンゲリオン オフィシャルページ

エヴァンゲリオンのリアルタイム情報はこちらで！

PCサイト

▶ <http://www.gainax.co.jp/anime/eva/>

携帯サイト▶ <http://wpp.jp/eva/>

エヴァンゲリオン オフィシャルストア

▶ <http://www.evastore.jp/>



ココからGO!

【発行日】 2010年6月15日

【発行】 株式会社デアゴスティーニ・ジャパン
〒104-0045

東京都中央区築地4-7-5 築地KYビル

【発行人】 小河原和世

【編集人】 クロス中山慶子

【チーフエディター】 安部 翠

【印刷】 大日本印刷株式会社

©2010 K.K.DeAgostini Japan All rights reserved.

【編集協力】 株式会社ウィーブ (石川裕人/田代 豪/大久保圭/本多らな)

【監修】 株式会社ガイナックス

©GAINAX・カラー/Project Eva. ©GAINAX・カラー/EVA製作委員会

<オリジナル版>

【編集協力】 有限会社 メガロマニア (宮田英樹/高村泰稔/渡邊洋三/
加藤和弘/山田展寛/桑木貴章/鈴木秀治/公森直樹)

【執筆】 TRAP (西川紗矢/遠藤智子)/ぼろり春草

【イラスト】 市川裕文/深野洋一 (M.I.C.) /射尾卓弥/K2商会

【デザイン】 ローカル・サポート・デパートメント (島田英明/角田正明)

株式会社 インフォビジョン (河野幹哉/安川純史/田中春夫)

<新訂版>

【編集協力】 スタジオ・ハードデラックス株式会社 (伊藤桃香/米良真一)

【デザイン】 スタジオ・ハードデラックス株式会社 (松本優典)

●書店向け注文受付センター

(書店様からのご注文を承ります)

☎ 03-5212-5311

(月~金 9:30~17:30 土日祝日を除く)

FAX 03-5212-5312

●読者サービスセンター

(本誌関連の一般的な質問を承ります)

☎ 0570-008-109

(月~金 10:00~18:00 土日祝日を除く)

*本商品は2007年に刊行された「エヴァンゲリオン・クロニクル」
(発売：ソニー・マガジズ)に改訂を加えて刊行するものです。

本誌の最新情報をCheck!

PCからもケータイからも同じアドレスでアクセスできます。

<http://deagostini.jp/eva/>



定期購読のご案内

週刊「エヴァンゲリオン・クロニクル 新訂版」は、毎週火曜日発売です(一部地域を除く)。シリーズ全号が確実にお手元に届くように、書店を通じての定期購読をお勧めいたします。最寄の書店で、定期購読または予約購読をご用命ください。また、小社を通じての定期購読を希望される方は、次のいずれかの方法でお申し込みください。

1. 読者専用定期購読受付センターに電話またはFAXで

☎ 0120-300-851

(9:00~21:00 年中無休)

FAX 0120-834-353

(定期購読申し込み用紙をお送りください。24時間受付)

2. インターネットで

<http://deagostini.jp/eva/> (24時間受付)

*ケータイからも同じアドレスでアクセスできます。

3. 定期購読申し込み用紙を郵送

(「定期購読のお知らせ」がお手元にはない場合は受付センターまでご連絡ください。)

特製バインダー発売のお知らせ

週刊「エヴァンゲリオン・クロニクル 新訂版」は特製バインダー4冊に収まります。エヴァンゲリオン大百科を完成させるのに不可欠なバインダー2・3巻の2冊セットを7月上旬に通常価格1,790円(税込)で発売する予定です。
※4巻目のバインダーは第31号でプレゼントいたします。



下記弊社プライバシーポリシーに同意の上、お申し込みください。【個人情報のお取り扱いについて】 1. 個人情報の利用目的 商品の発送と運送、各種情報・資料等のご案内を利便的に行います。 2. 第三者への個人情報の提供・開示等 法令の規定に基づいて司法・行政機関等からの情報開示の要請を受けた場合を除き、第三者に個人情報を提供・開示等を行うことはありません。 3. 個人情報の委託と管理 弊社は注文の受け付けと発送、商品の配送、クレジットカード会社への確認と支払いの処理、代金収納専門企業による売り上げ代金の収納、データの分析、カスタマーサービスなどのために必要な範囲内で保有している個人情報を他社に委託していただきます。契約等により委託先を厳密に管理いたします。 4. 個人情報提供の任意性 個人情報を弊社に提供されるかどうかは、お客様の任意におまかせします。但し各申込フォームの項目に未記入部分があると手紙がとれない場合もあります。(購入に関するお問い合わせは定期購読受付センター：0120-300-851へ) 5. 個人情報に関する請求等のお問い合わせ窓口 デアゴスティーニ・ジャパン(CRM部長 電話番号：03-5309-8288 *受付時間 10:00~18:00 (土日祝日、弊社休業日を除く)) *弊社ウェブサイトでも個人情報保護の概要をご案内しております。 <http://deagostini.jp/security/>



第2使徒

リリス



人類の始祖

となりし存在

SECOND ANGEL

LILITH



UNKNOWN

違う。これはリリス……

そうか、そういうことか。リリン。

(第17使徒タブリス)



DATA

呼称：2nd ANGEL

第2使徒

天使名：LILITH

リリス

関連事項 RELATED MATTERS

- アダム
- 綾波レイ
- 黒き月
- EVA初号機



使徒を生み出したとされる始源の存在。セカンドインパクトの際に、ロンギヌスの槍で卵にまで還元されたという。

ターミナルドグマ最深部に幽閉されている白い巨人

アダムと並ぶ生命の始源であり、人類を生み出したとされるリリス。ヒトは彼女に与えられし知恵でもって母なる存在すら利用、人類をさらなる段階へ昇華させるべく画策する。

NERVによって幽閉されていたリリスの肉体は、分かれた魂である綾波レイとひとつになり、人類の補完を行なう。

聖書の正典でリリスが言及されることはなく、“ベン・シラのアルファベット”という書物においてアダムの最初の妻とされ、彼の下を去って悪魔との子を数多くなしたという。その娘たちをリリン(リル=イン)と呼ぶ。



ターミナルドグマに幽閉された巨人。周囲の壁には複数の核弾弾が埋め込まれ、もしもの際には巨人を確実に破壊できるようにになっているようだ。



碓氷シンジの呼びかけに応えたりリスは綾波レイは、サードインパクトを契機に人類の補完を開始する。

あります

リリスの身体と能力

肉体と魂が揃ったリリスは霊的な存在に近いようで、物質を素通りし、自己の大きさを自在に変化できる身体を持つようだ。なお、ターミナルドグマより浮上してきた際は「高エネルギー体」と判断されていた。



アダムの肉体を取り込んだリリス。そのためか、アダムの魂をもつていた渚カヲルの姿も顕現している。

分かれた肉体と魂

肉体はターミナルドグマに幽閉され、その魂は綾波レイという少女に移されている。これは強大な力を持つ始源の存在を抑え込む手段のひとつなのかもしれない。なお、キール・ローレンツの弁によると、EVA初号機は「リリスの分身」だという。



アダムの魂を宿していた少年から、「お互いに、この星で生きていく身体はリリンと同じ形に落ち着いたか」と語りかけられているレイ。



物理的に影響を及ぼすほどのA.T.フィールドを生身で展開し、肉体の再生さえ可能な存在は、もはやヒトの範疇外であろう。



←綾波レイ

EVA零号機の適格者であるファーストチルドレン。クローニングによるものと考えられる肉体を有す、造られし存在である。

幽閉されし身体

ターミナルドグマのL.C.L.プラントに封じられているリリス。その正体は限られた人物しか知らず、NERVはこれを「アダム」だとする偽りの情報を流していた。「使徒はアダムとの接触を目論む」という前提において、使徒を呼び寄せる餌として用いていた節がある。さらには各組織の情報部も踊らされていたようだ。また、リリスより滴り落ちる体液をL.C.L.の原液として使っていたとも推測され、プラント(工場)というその区画名の通り、リリスはL.C.L.の生産場として機能していたのではないだろうか。



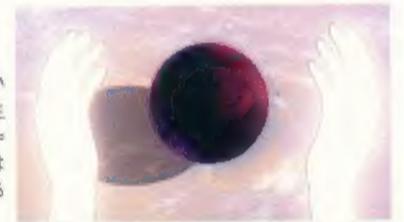
魂が身体に還り、魂という戒めから脱するリリス。その際に顔から仮面が剥離したことが確認されており、杭と同様に彼女を戒めるための器具であったとも考えられる。

人類の始祖たる存在

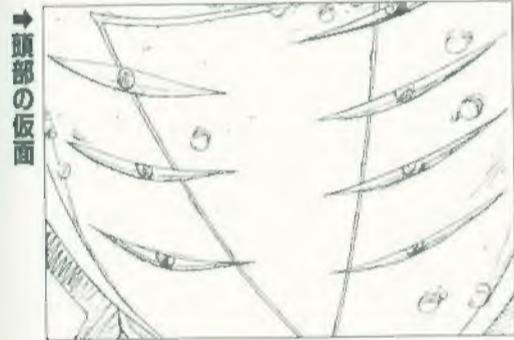
「偽りの継承者である黒き月よりの我らが人類、その始祖たるリリス」——渚カヲルとコンタクトを取ったゼーレの言から、アダムと同等の存在であり、人類の創造主だと考えられる。



MAGIの分析でヒトだと判断されながら、使徒を指すパターン・書だと分析されている。そこから空白の第2使徒がリリスなのではないかと推測されよう。



ジオフロントと呼ばれていた建造物は、人類の生命の源たるリリスの卵——黒き月だと判明。それは生命が誕生し、また還るガフの部屋であった。

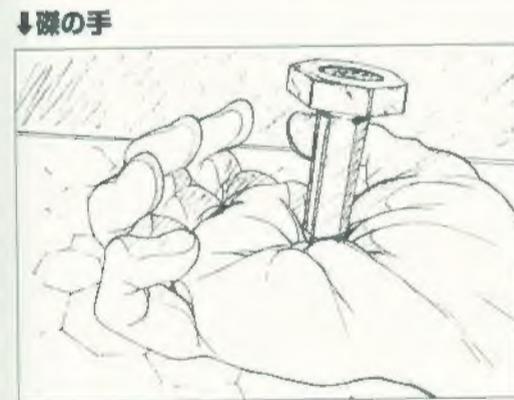


→頭部の仮面



↑外科処置が施された頭部

リリスにはゼーレのエンブレムである7つの目が描かれた仮面が着けられ、同様のエンブレムが刻印された杭によって十字架のようなオブジェクトに縫い止められている。また、頭部には何らかの外科処置がされているようで、十字架から後頭部へコードが伸びている。これらは、魂のない虚ろな身体とはいえ、人間を生み出した、いわば神に等しいほどの存在を拘束し、利用するために必要な器具や措置なのであろう。



↓疎の手

サードインパクトとリリス

碓シンジの呼びかけに応えたリリスの魂＝綾波レイは本来の身体に戻り、完全体となってEVA初号機の下へ。その際にEVAシリーズはレイと同化し、リリスと量産機のアンチA.T.フィールドが共鳴、増幅され地球規模で展開。個体生命の形を維持するA.T.フィールドを消し去り、全人類をL.C.L.、生命の源へと還元していく。そして生命の樹と化した初号機を内に取り込み、人類がひとつになったことをシンジに伝えるレイ。しかし彼は、友人たちに再び会いたいと願う。他者のいる世界を望み、現実と向き合うことを選んだ少年に応えるリリス。その最期に肉体が崩壊していく。



「私はあなたの人形じゃない」そう語り、碓ゲンドウの下を去る綾波レイ。最終的に彼女は、自らの意志でシンジを選び、人類の行く末を彼に託す。



L.C.L.と化した人類はリリスを介して黒き月へと還り、人類はひとつとなる。しかしシンジは、再び人類が個々の存在となる世界を望む。

特記事項

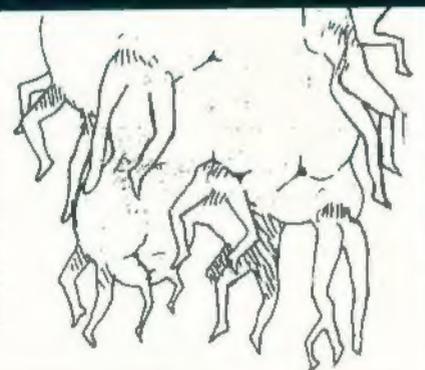
ロンギヌスの槍とリリス

葛城調査隊の言から、死海にて陸揚げされたというロンギヌスの槍。セカンドインパクトの際にアダムを卵にまで還元するため使われたものを回収し、リリスの胸部に突き立てられていた。この槍はリリスの再生能力を抑止する働きを見せている。また、A.T.フィールドに対する絶対的な突破能力を持っていることから、生命の始源に対する一種の対抗装置のような代物と推測されよう。



ロンギヌスの槍を抜いた瞬間に下半身が再生したリリス。以前は人間サイズの下半身が複数生えており、増殖のようにヒトらしき肉体が生み出されていたのだろうか。

→人間サイズの下半身が複数生えるリリスの下部





早成した
人格を持ちつつ



民間

相田ケンスケ

KENSUKE AIDA

適格者に
憧れた少年

【 個人情報 】

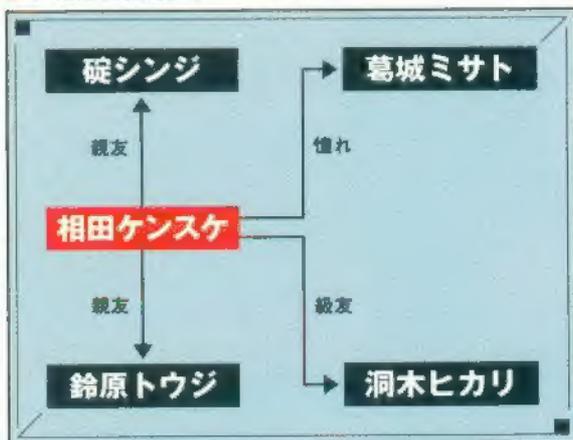
名前	相田ケンスケ
年齢	14歳
国籍	日本
生年月日	A.D.2001/9/12
血液型	A型
所属	第3新東京市立第壱中学校

第3新東京市立第壱中学校2年A組に所属する相田ケンスケは、碓シンジをはじめとするEVA操縦適格者のクラスメイトである。彼は、中学2年生という年頃の少年としては珍しいほどの、熱烈なミリタリーマニアである。さらにカメラをよく携帯しているところからは、映像、画像撮影も大きな趣味のひとつであることが窺える。

そんな嗜好を持つケンスケだが、何より特筆すべきは、EVAに乗ることに対する強い憧れの感情だろう。普段はどこか遠く離れた雰囲気のある彼だが、EVAに関しては趣味への傾倒をしのぐ興味を見せ、ときには親友のシンジに嫉妬らしき感情を見せることもあるほどだ。シンジのEVA操縦適格者としての苦しみ、鈴原トウジがEVAに乗った際の惨事を知ってもなお、EVAに乗ることに憧れていたようである。それは事の重大さを理解していない訳ではなく、EVAに対し、それほどの強い想いを持っていたと見るべきだろう。セカンドインパクト後の混乱期における体験や、父がNERV職員であることがその起因と考えることもできるが、その想いが明確に語られることはない。

EVAに憧れ続けたものの、結局、操縦のチャンスすら与えられることがなかったケンスケ。しかし、彼も適格者候補が集められた第3新東京市立第壱中学校、2年A組の一員ではあった。つまり、彼がEVAの操縦者となる可能性も皆無ではなかったのである。その場合はケンスケも何らかの実害を被るかたちとなったであろうことは想像に難くないが、彼ならば、それすらもよしとしていたかもしれない。

人物相関図



関連事項

- 碓シンジ
- 鈴原トウジ
- 葛城ミサト
- 洞木ヒカリ



EVA初号機専属操縦者。特務機関NERVの最高司令官であり実の父親である碓ゲンドウに、複雑な感情を抱いている。

表情 / 制服



←眼鏡とソバカスがトレードマークとなっているケンスケ。顔立ち自体には、14歳の少年らしい幼さがある。



EVAが自分たちに向かって倒れこんできた際、珍しく泣き顔を見せたケンスケ。相当の恐怖だったことが容易に想像できる。



←口元を結び、目をこらすような表情のケンスケ。眼鏡を持ち上げる仕草は、彼がよく見せる癖のひとつだ。



→老成した性質がそうさせるのか、ときおり、どこか遠くを眺めるような表情を見せることもある。



側面

←第3新東京市立第壱中学校の制服に身を包むケンスケ。特に着崩すこともなく、外見は他の生徒と変わらない。

背面

正面

→胸ポケットにはペンが挿されている。好奇心旺盛な彼は、常に興味深い事柄をメモできるよう用意しているのかもしれない。

相田 ケンスケ という存在



↑→早成した性格を持つものの完全に達観しているというわけではなく、表情は非常に豊か。時には大きな声を上げることも。



←↓式号機輸送時、見学者として葛城ミサトに同行させてもらったケンスケ。赤いTシャツにポケットがついたベスト、ウェストポーチと、趣味であるミリタリーテイストの強いいでたちだ。



シンジや鈴原トウジと親友関係にあるケンスケ。この3人は、惣流・アスカ・ラングレーや洞木ヒカリから「三バカトリオ」と呼ばれているが、ケンスケは他のふたりとは一線を画した多面性を持っている。EVAやミリタリーなど、自らの趣味に対しては少年らしく夢中になる様子を見せるケンスケ。だが、友人らと何気ない会話をしている際などは、時に中学生の少年とは思えないほどに達観し、老成した考えを覗かせることがあるのだ。そのマニアックな面ばかりが目になってしまうためか、周囲の人間が彼の持つ性質に気づくことは少ないようである。しかし、彼は友人関係などを潤滑に運ぶべく、細かい気遣いができる人間であることは間違いなく、彼の存在なしでは、シンジとトウジが和解することもそう簡単ではなかっただろう。シンジ、トウジと比較した場合はもちろん、クラスの中でも数少ない「大人」らしい存在であるケンスケ。EVAに乗ることを強く望む気持ちもまた、自らの力で何かを守りたいという達観した思いによるものかもしれない。



シンジが自らをEVAのパイロットだと明かして大騒ぎになったときも、ケンスケは騒ぎに加わることはなく、冷静に情報を記録していた。



ミサトがシンジにスポラさを見せるのは、家族ならはだと気づいたのも、普段、家族と過ごす時間が少ないためかもしれない。

ケンスケの家庭は現在、父ひとり子ひとりの父子家庭であるようだ。母は亡くしているとのことだが、それを特に悲観している様子は見受けられない。父親は所属は不明だがNERV職員であり、ときおりそのパソコンからNERVに関する情報を盗み見たりもしているようだ。そういった行為もまた、EVAに対する憧れを強いものにする要因のひとつであろう。

家族について、ケンスケが詳しく語ることはほとんどない。しかし、その早成した性質が家庭に拠るものであることは想像に難くない。14歳という年齢で母親はおらず兄弟も持たない彼は、ひとりで過ごす中で早成した性質を身につけていったのであろう。

家庭

が与える影響

早成した性格

が与える影響



シンジがNERVの人間に連れ去られたことについても、ケンスケは「向こうはNERVの保安課報部、プロなんだよ」と冷静な様子であった。激昂するトウジとは対照的である。



アスカの転入後、その写真を売るといふ商売を思いついたケンスケ。アスカの性質を知っていたという理由もあるが、騒ぐ側に回らずうまく立ち回ったのも彼ならではの行動だ。

クラスメイトでありながら、その素性が知れない綾波レイ。彼女についてケンスケが書いた考察文書からは、彼の早成した性質がはっきりと見受けられる。その内容はとても中学2年生の少年が書いたとは思えないものである。特に親しい訳でもないのに、彼女の本質を見抜くような鋭い観察眼は、日常生活における交友関係でも役立っているようだ。本人が意識しているかどうかは不明だが、まったく性質が違ううえに、個性の強い友人たちと良好な関係を築くことが可能であることも、ケンスケが彼らの性質を見抜き、それに適した対応をすることができるという事実にも拠る部分大きい。

碓 シンジ との関係



シンジを殴り倒したトウジと、その行動についてフォローを入れるケンスケ。彼が仲介役を担おうとしていたことは間違いないが、シンジはその意図をくみ取れなかった。



母親を亡くしていることをシンジに打ち明け、「碓と一緒に」と呟いたケンスケ。彼らがまともに会話をしたのはこの時が初めてだったが、互に通じるものがあったようだ。

知り合った当初からEVAの操縦者だったシンジに対し、ケンスケは強い羨望ともいえる感情を抱いていた。しかし、その感情が友人関係に支障を与えることはなく、基本的にネガティブな性質を持つシンジも、ケンスケの達観した思考に助けられることが少なくなかったものと推測される。第13使徒との戦いの後、再びシンジがEVAから降りることを決意した際、彼に電話をかけたケンスケは珍しく激昂した。それは親友だからこそ、自分でEVAに乗ることを決めたシンジが逃げることを許せなかったためであり、少なくとも、シンジに対して激昂できるだけの強い感情を持っていたことの証左であろう。



EVAを見たい一心でシェルターから出ることを提案するケンスケと、結局は協力してしまうトウジ。互いをよく知った親友らしい行動だ。

シンジが転入してくる以前から、ケンスケとトウジは親しい友人であったようだ。まったく性格の違う彼らが、どのようにして友人関係を持ったのかは謎だが、逆に性格が大きく違うからこそ、お互い心地よい関係を築くことができたともいえる。時には人の良いトウジがケンスケの趣味に付き合い、ケンスケが頑固なトウジの心を和らげる。意識している訳ではないだろうが、そこには互いの性格を理解しあった、絶妙の関係が存在している。なお、このふたりにシンジという新しい友人が加わることになっても、その基本的な関係は変わることがなかった。これは、彼らが強い信頼関係を持っていたことの証だろう。

鈴原 トウジ との関係

葛城 ミサト との関係



ある朝、シンジを迎えに来たケンスケたち。そもそもはミサトに会うことが目的だったようで、ミサトに手を振られただけで感涙するなど、強い憧れを持っていたようだ。



ミサトの昇進にいち早く気づき、祝いの言葉を述べるケンスケ。彼でなければ誰も気づくことはなかっただろう。ちなみにこの後、昇進祝いパーティーも提案していたようだ。

シンジの保護者であるミサトは、シンジの友人ふたりにとっては「美人のお姉さん」であり、憧れの対象であった。しかし、ことケンスケにとってはそれだけではなく、NERVに勤務し、EVAと使徒との戦闘において指揮を執っているという意味合いでも、強い憧れを抱く対象だったと考えて間違いないだろう。うら若き女性でありながら、親友の親代わりを務めているだけでなく、人類を守る戦いの最前線に立っていたミサトという女性は、ミリタリーマニアの少年にとってたまらない存在であっただろう。勿論その憧れも、ミサトの私生活におけるズボラさを知らないがための感情ではあるのだろうが……。

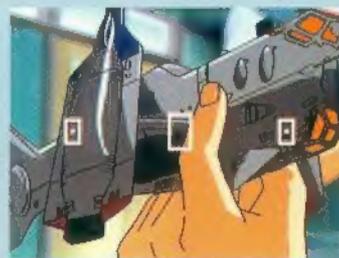
特記事項

ミリタリーマニアとしてのこだわり

戦闘というものに強い憧れを持つケンスケ。その表れなのか、シェルターを脱出するという危険を冒してまでEVAと使徒の戦闘を見たがったり、EVA式号機を護送していた太平洋艦隊を遠くとしてビデオで撮影していたりと、軍事関係の事柄に関してはかなりのマニアックさを見せている。時には学校を休んでまで戦艦などの撮影に出向くこともあり、その様子は、時に周囲の人間を呆れさせるほどだ。中学生なのだから金銭的な余裕もそれほどはないはずだが、戦闘機などの模型、サバイバルゲーム用のテントや迷彩服など、彼が持つミリタリー関係の機材は相当なものである。こういったことから、マニアとしての強いこだわりが見て取れる。



↑迷彩服 (Tシャツ)
←野営時の迷彩服



休み時間に重戦闘機の模型を持ち、まるで子供のように飛ばす真似をして遊ぶケンスケ。お気に入りのアイテムを学校に持ち込むあたりも、達観しているとはいえ、まだ14歳の少年ならではの行動といえるだろう。



EVAを操縦することから逃れるように、家出したシンジ。そこで偶然ケンスケを見かけた際、彼はひとりサバイバルゲームに興じていた。そのさまは、ひとりで上官と兵士の芝居をするほどの熱の入りようだった。



第14使徒ゼルエルは、駒ヶ岳防衛網を突破。ジオフロントにてEVA式号機、零号機を撃破し、セントラルドグマへの侵攻を果たした。度重なるアクシデントによって出撃の遅れていた初号機は、第1発令所まで到達した第14使徒ゼルエルに対して徒手空拳による迎撃を開始。左腕を破損させながらも、ゼルエルをジオフロントまで後退させることに成功する。

第2次ジオフロント攻防戦

シンクロ率400%となった初号機によるS²機関の“取り込み”

TACTICS SHEET

第2次ジオフロント攻防戦と呼称される第14使徒ゼルエル迎撃戦は、かつてないほどの甚大な被害を被った壮絶極まりない戦闘となった。この作戦において、NERV司令部の対応は、ことごとく後手に回ってしまい、結果、使徒に対して第1発令所までの侵攻を許している。また、作戦中、度重なる突発的アクシデントに見舞われ、戦闘は想定外の結末を迎えることともなった。ちなみに“第2次”と称するのは、第11使徒イロウル戦においてNERV本部施設が使徒によるMAGIへのハッキングによって直接攻撃されたことに起因する。

そもそも第14使徒出現の探知は、NERV本部から数km前後の駒ヶ岳防衛網付近と初動においても大幅な遅れを喫していた。そのため、第3新東京市外郭部への到達時には、EVAの出撃体制が整っていない。しかも、目標は市街地への最初の一撃

で、地表面とジオフロント内との間に設けられた多層式特殊装甲のうち、18層を撃破。これにより葛城三佐は、通常の市街地上での迎撃を諦め、ジオフロント内にEVAを配置し、目標を殲滅するプランへと切り替えた。だが、諸般の事情から満足な迎撃体制を整えることができず、ジオフロント内に降下した使徒に対し、唯一配置にしていた式号機は両腕と頭部を切断され沈黙。続く零号機も撃破され、目標にセントラルドグマへの侵攻を許してしまう。そして、この段階において、ようやく初号機が出撃を果たす。この遅れは使徒出現当初、専用パイロットの不在に加え、ダミープラグによる起動失敗などのイレギュラーな状況下ゆえのアクシデントであった。しかし、最終的に専用パイロットの復帰により、出撃へとこぎつけたのだった。

初号機は発令所内での格闘戦で左腕を失いつつも、目標を本部施設外へ排除することに成功。しかし、内部電源のみの稼働であったため、わずかの時間で活動限界に陥る。結果、使徒の一方向的な反撃

に遭い、初号機は胸部装甲から内部構造体までを損壊する危機的状況となる。だが、ここで初号機は内部電源が0であるにも関わらず、またも再起動。使徒を圧倒し、その身体を捕食するという異常行動を見せた(この行動は、初号機が使徒の活動の原動力であるS²機関を取り込む行動であったと考えられている)。この時、初号機とパイロットのシンクロ率は400%という信じがたい数値を示していた。そして、その代償は大きく、このとき、エントリープラグ内の搭乗者の肉体は消失してしまう。この結末を受けて、NERV本部は、L.C.L.に溶け込んだパイロットの肉体の“サルベージ”作業を開始することとなるのだった。

関連事項 RELATED MATTERS

- 第14使徒ゼルエル
- ジオフロント
- セントラルドグマ
- EVA初号機
- S²機関



圧倒的な攻撃力、n²弾でもダメージを与えられない装甲と、ゼルエルの能力は過去に出現した使徒を遥かに凌ぐ。

使徒によるセントラルドグマ侵襲

ジオフロント内へ使徒が降下侵入するのを狙っての迎撃プランは“肉を切らせて骨を断つ”苦肉の策であった。しかも迎撃体制を取ることが出来たのは式号機のみであり、結局零号機とともに各個撃破され、セントラルドグマ侵襲という危機的事態を招いてしまう。

1 使徒出現

TACT

駒ヶ岳付近に使徒の出現を探知。駒ヶ岳防衛網として配置された国連軍と、市街地擬装火器にて応戦するが、使徒は圧倒的能力で易々と突破した。



駒ヶ岳防衛線を突破した目標は、市街地での擬装火器にて応戦するNERVであるか、まったくダメージを与えず、目標は悠然と飛行を続ける。

2 使徒、ジオフロントへ侵入

TACTICS SHEET

第3新東京市市街地へと侵襲した使徒は、強力な怪光線を放ちジオフロント内部の数層にも及ぶ特殊装甲を撃破。ジオフロント内への侵入を果たす。



第3新東京市へ侵襲した目標は、数発程度の怪光線の発射でジオフロントと地表面との間に設けられた特殊装甲をすへて貫通。その内部へと降下を開始。

3 式号機、使徒と交戦

式号機は、持ちうる限りの重火器の連続射撃にて、ジオフロント内へ降下してきた使徒を攻撃するも、損傷を与えることはできず、逆に両腕および頭部を切断、撃破される。



降下してくる目標、向かってATフィールドを中和しつつ狙い撃つ式号機が、だが敵はひくともせず、逆に式号機はボディを瞬時に切断され、沈黙。

4 零号機(改)、使徒へ突撃

パイロット不在で起動不能な初号機に代わり零号機が1回突撃。零号機は使徒のコアに直撃させようと突撃するものの失敗。直撃の直撃爆発と頭部への攻撃を受けて人破する。



零号機は、目標のATフィールド内へ入り込み、直撃させようという自爆攻撃を試みるが、直前に目標のコア部分を防御されてしまう。

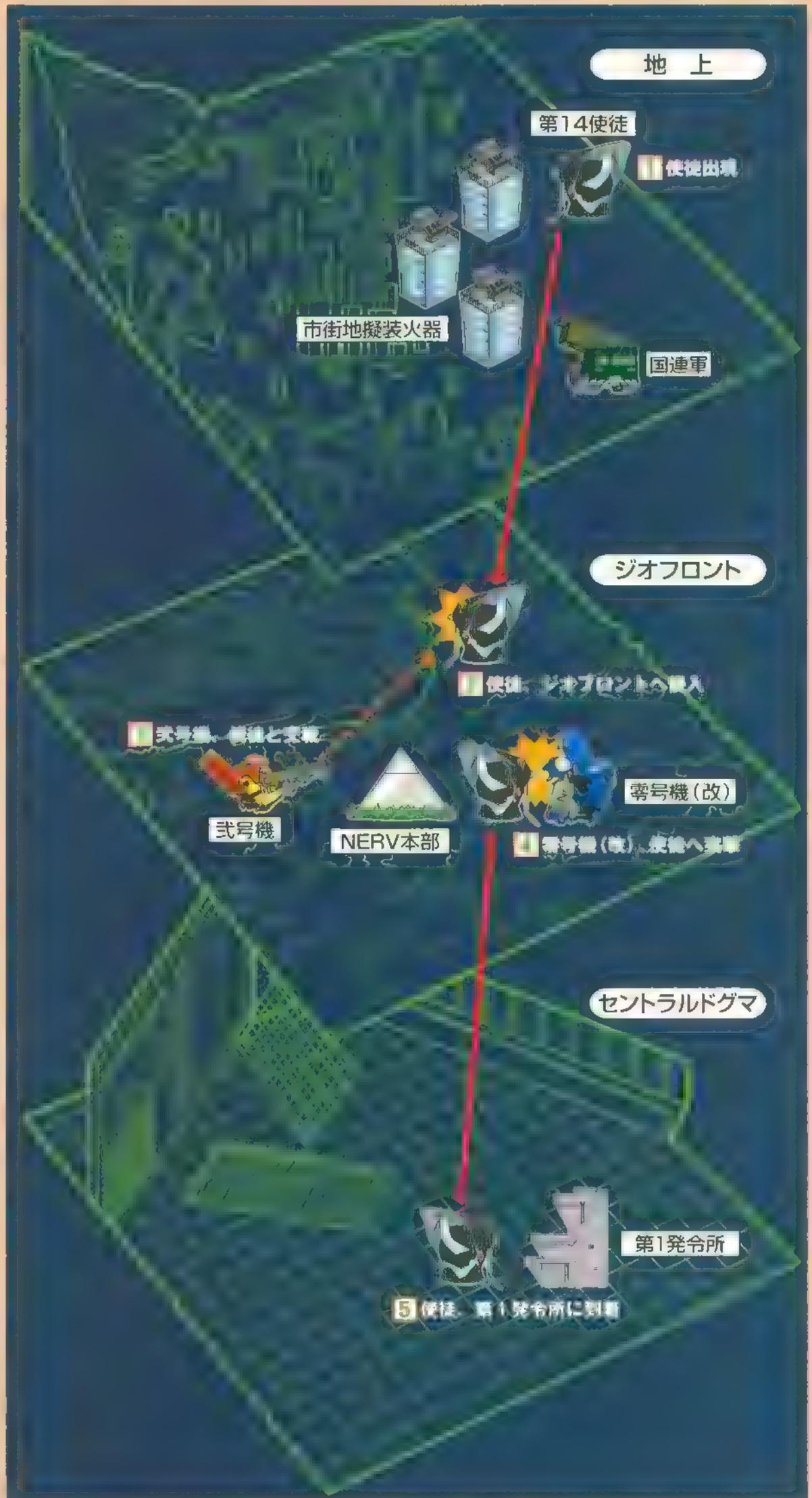
5 使徒、第1発令所へ到着

TACT

ダメージによる初号機の起動シークエンスが実行される中、目標はNERV本部への攻撃を続け、NERVメインシャフトを通過し、セントラルドグマの第1発令所へと到達。発令所は半壊。



2機のEVAの攻撃をものともせず、目標は本部へ到達。上部施設を破壊しメインシャフトからセントラルドグマへと侵入。その巨体を第1発令所内に現した。



シンクロナイズド400%の威力

使徒迎撃は、本来であれば現有するEVA3機による連係攻撃が望ましいところであった。だが、零号機は直前の第13使徒戦で受けた左腕部の損傷を修復中のため、実戦投入は不可と判断。初号機もパイロット不在など様々な理由から即時出撃は困難であった。そのため本作戦は式号機および、遅れて出撃した左腕部損傷中の零号機による各個の散発的な攻撃しか行なえず、満足な形での迎撃が遂行できなかった。さらに使徒にセントラルドグマ内へと侵攻され、サードインバクトの危機が現実化してしまう。そんな状況下において、専属パイロットが復帰した初号機は、単身ながら圧倒的な格闘戦闘力を持って使徒に反撃。一旦は活動停止に追い込まれたものの、初号機が使徒を殲滅せしめたのは、EVA(初号機)の人知を超越した“力”によるところが大きい。

特記事項

初号機の異変

作戦時、初号機は諸般の事情で専属パイロット＝サードチルドレンが不在であった。碇司令は、初号機に一定のシンクロナイズド率をマークしていたファーストチルドレンを搭乗させることを決断するが、神経接続がうまくいかずファーストチルドレンでの出撃を断念。その後もダメージシールドを利用して初号機の起動を試みるも、どれも無闇無明のエラーにより失敗。しかし、サードチルドレンの復帰に際しては通常通りに起動している。サードチルドレン以外を拒絶するかの如き初号機の挙動に関しては、今後の研究を要するものである。



専属パイロットが不在であったため、初号機へはファーストチルドレンが搭乗し出撃する予定であった。だが、ファーストチルドレンは神経接続がうまくいかず、無闇には失敗する。

従来の使徒とは比較にならないほどの能力を持った第14使徒ゼルエルに対し、散発的な形でしか攻撃できなかったNERVは、第1発令所崩壊という最悪の事態を迎える。この絶体絶命ともいえる状況を打破したのは、サードチルドレンが搭乗した初号機であった

初号機vs使徒戦闘経緯

1 初号機、使徒と接触

セントラルドグマ内に使徒が侵攻中のさなか、サードチルドレンが初号機の専属パイロットとして復帰(それは碇司令への直訴であったとも言われている)。第1発令所内へと姿を現した使徒が、怪光線を放とうとしたその寸前で、初号機が発令所内へと踏入、使徒を右腕で殴打。そのまま組み合ごとの格闘戦を開始する。発令所内、いた戦員の命はかろうじて救われた。



発令所の壁を突き破り、ゼルエル。体ごとパンチを繰り出す初号機。そのまま2体は組み合いとなり、初号機は施設を破壊しつつも、ゼルエルを射出口へと引きずり出す。

2 初号機、使徒と共にジオフロントへ射出

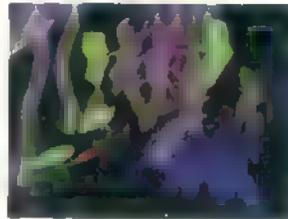
発令所内から射出口へと、本部施設を損壊しつつも、初号機は使徒を、気河成な力業で強引に押し出して行く。その際初号機は使徒の反撃に遭い、左腕をもぎ取られ欠損するも、使徒を射出口のリアアールカタバルトへ押し込むことに成功。それを見た発令所の葛城三佐は、即座にカタバルトを作動させ、初号機ごと使徒をジオフロント内へと一気に排除するのであった。



リアアールカタバルトにゼルエルを押しつけた初号機を見て、発令所側はカタバルトを作動させた。初号機はゼルエルを取り押さえたままの形で、本部施設外へ。

3 初号機、沈黙

ジオフロント内へと射出された初号機は、攻撃力をゆるめることなく戦闘を続行。使徒を組み敷き、顔面部を引きちぎろうとするも、内部電源消耗による活動限界を迎えてしまい、初号機は完全に沈黙してしまう。それまでされるがままであった使徒は、これに乗じてか、初号機に反撃を開始。胸部装甲を破壊し、あらわとなったその内部構造体を容赦なく攻め立てて行く。



優勢に攻撃を繰り出して、いた初号機であつたか活動限界を迎え沈黙。形勢は逆転し、ゼルエルは初号機の胸部装甲を破壊。露出した内部構造体へも攻撃を加えてゆく。

4 初号機、再起動

沈黙状態の初号機は、さらに攻撃を加えられ、これまでと思われたその時、突如再起動。いわゆる暴走状態と酷似した一種の無制御状態となる。しかしその攻撃能力はいつにも増して凄まじく、まず敵の腕部先端をA.T.フィールドで引き裂き、続いて腹部へ強硬な蹴り。その勢いで使徒の左腕をもぎ取るや欠損していた左腕部に接合。あろうことか、使徒の腕部は初号機の腕として再生した。



だが、またも初号機は自律的に再起動を果し、反撃を開始する。その猛攻でゼルエルを圧倒。さらに相手の腕をもぎ取り、自らの腕に変化させたのである。

5 使徒殲滅

左腕を取り戻した初号機は、命を叫ぶと、二足歩行ではなく四つん這いとなり、もはや身動きの取れないほどダメージを受けている使徒へと急速接近。コア部分が存在する使徒の胸部辺りを捕食し始めるのであつた。この驚愕すべき初号機の捕食行動によって、使徒は完全に沈黙し、これをもって“使徒殲滅”とみなし、形式上作戦終了となった。



致命的なダメージを受け、もはや動きの取れないゼルエルに対し、初号機は野獣を思わせるような動きで接近すると、その身体を「心不乱」喰らい始めた。

技術圖書

第14使徒ゼルエルの能力

いわゆる人型を呈するゼルエルではあるが、手足らしき部位はいずれも短く、移動も空中浮遊によって行なわれる。ただし、腕とおぼしき部位は柔軟かつ超硬質の帯状触手が折りたたまれており、必要に応じて伸縮して対象物の切断や捕獲などを行なえる。その表皮は極めて強靱であり、A.T.フィールドなしでもほとんど物理的な攻撃は受け付けない。また顔面らしき部位より発する怪光線は、従来の使徒のそれよりも遙かに強力な破壊力を有しており、こうした能力から“最強の使徒”と称される。



帯状の腕部を突き立て、さらに怪光線を初号機に放つゼルエル。その攻撃で初号機の胸部装甲は全損、内部構造にもダメージが及んだ。圧倒的な破壊力を持った使徒である。



第14使徒ゼルエル



作戦報告

第2次ジオフロント攻防戦の結果

① 初号機によるS+機関の取り込み

本来、EVAにはS+機関は生ずることがないとされてきた。その搭載実験も試みられたが失敗に終わっており、初号機が使徒を捕食することでS+機関を取り込んだことは、ある意味で念願が叶ったものである。しかし、それはゼーレが想定していた形ではなかったようで、本件ではむしろ不満意見が強かったとされる。



使徒の肉体を捕食することでS+機関をその体内に取り込む初号機。しかし、あまりに凄惨な光景を目撃した職員の中には嘔吐感をもよおす者も見られた。

② 戦闘による甚大なる被害

本件では、零号機及び貳号機と2機のEVAが戦闘不能な状況にまで大破。またジオフロント内で戦闘を断行したため、貳号機撃破時にはその頭部が不幸にも地下の避難シェルターを直撃し、多くの民間人を死傷はしめている。さらに本部ビル破壊によるメインシャフトの露呈と、セントラルドグマ内の第1発令所の損壊（結果、第1発令所は放棄された）など、NERV本部も壊滅的な被害を受けている。



第14使徒との戦闘により、NERV本部ビルは破壊し、使徒が侵入した第1発令所は放棄。MAGIもソフトウェアを予備システムに全移植するなど、その被害は甚大なものであった。

追加報告

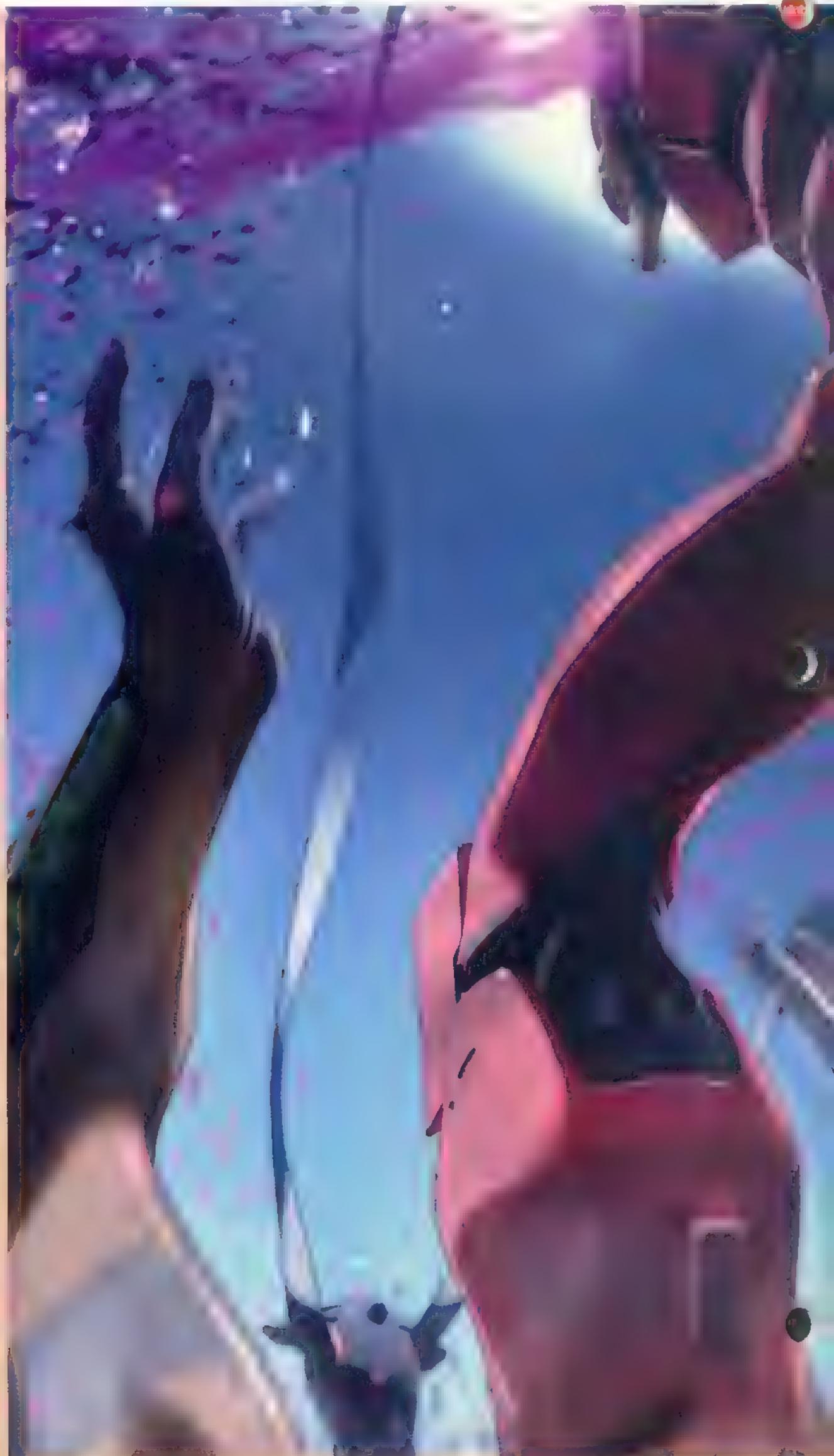
初号機の完全自律起動

EVAの起動とその活動可能状態の維持には、外的なエネルギー供給が不可欠である。しかしながら、EVA初号機はエネルギー源無しでこれまで何度か起動を果している。本件戦においても、一度は内部電源が完全に消耗し活動停止していた状態から、自律的に起動しただけに止まらず、驚異的な破壊力をもって使徒を圧倒している。この自律起動後の超絶的なパワーも、それまでの事例との類似点といえる。こうした不可解な現象は初号機のみが発生しており、他のEVAとは一線を画した特異性でもあったと考えられよう。



ゼルエル戦では沈黙した初号機が、突如再起動し敵を撃滅した。また出撃前にも初号機の腕が自律的に動いてセントラルドグマを保護したとの情報もある。

ゼルエル戦においては、使徒内部に取り込まれていた初号機が、活動限界時間を越えていたにもかかわらず、使徒の内側より自力での脱出を果している。



強大な破壊力を持つゼルエルを迎え撃つ貳号機ではあったが、その必死の攻撃も空しく、腕部と頭部を切断され、あっなく一敗地にまみれた。

新世紀年表

NEW GENESIS
CHRONOLOGY

四人目の適格者 FOURTH CHILDREN

初号機が第12使徒に飲み込まれるという事件の後、人類補完委員会は査問会を招集。シンジの代理人としてミサトが出頭した。次々に投げかけられる質問の中、この件が以降の使徒出現とリンクする可能性を問われたミサトは、これまでのところ使徒同士の組織的なつながりは否定されると淀みなく答える。「さよう、単独行動であることは明らかだ。…これまではな」「それはどういうことなのでしょうか」。意味深な言葉に思わず問い返してしまうミサトだったが、無論、答えは返されず、査問会は終了した。

A.D.2015

●NERV本部

01 人類補完委員会、査問会が招集される

初号機が第12使徒に飲み込まれるという事件の後、人類補完委員会は査問会を招集。シンジの代理人としてミサトが出頭した。次々に投げかけられる質問の中、この件が以降の使徒出現とリンクする可能性を問われたミサトは、これまでのところ使徒同士の組織的なつながりは否定されると淀みなく答える。「さよう、単独行動であることは明らかだ。…これまではな」「それはどういうことなのでしょうか」。意味深な言葉に思わず問い返してしまうミサトだったが、無論、答えは返されず、査問会は終了した。



暗い室内、1点のみ灯されたライトの中で、ミサトは委員会メンバーの尋問を受けた。



使徒に飲み込まれたことでパイロットにどのような影響もたらされたか。今現在調査中だが、どうもミサトはシンジの召還を拒否。委員会もその申し出を受け入れ、ゲントウも無言のまま、それを許した。

A.D.2015

●アメリカ

05 NERV第2支部、消滅

突如、事件が起きた。ネバダの第2支部が開発中のEVA4号機と共に消滅してしまっただ。爆発ではなく消滅。異様な事態である。分析室の床に映された衛星映像には、ふいに発生した光にあつという間に飲み込まれていく支部の様子が克明に映っていた。「ひどいわね」。ミサトが苦々しくつぶやく。「タイムスケジュールから推測して、ドイツで修復したS機関の搭載実験中の事故と思われます」と青葉。おそらく先の初号機の一件のように、ディラックの海に飲み込まれたのだらうと、リツコは見解を述べた。



半径89km以内の関連研究施設はすべて消滅した。数千人の人間を巻き込んで。



この件で開発途上の4号機のみならず、苦勞して直ったS機関も露と消えた。「よくわからないものを無理って使っからよ、辛らつに吐き捨てられたミサトの言葉に、リツコは「それはEVAも同じしたわ」とつぶやく。

2015年

人類補完委員会、
査問会が招集されるトウジ、
妹を見舞うレイ、
実験に参加

A.D.2015 ●病院

02 トウジ、妹を見舞う

蟬の音が響く中、第3新東京市内のとある病院を訪れる少年がいた。鈴原トウジである。入院中の妹を見舞いにやって来たのだ。普段はふざけているが、実は妹思いのトウジは、週に2回は必ず病院に顔を出しているのだ。E事件と呼ばれる事件で彼の妹が重傷を負い、この病院に入院してから、もうかなりの時間が経っている。妹の傷は重く、治療はなかなか思うように進んでいなかった。



仕事で忙し、父に代わり、まめに妹の様子を見に来るトウジは、ナースたちもいもよぼめずらしい男の子だと感じさせていた。

E事件 EVAと使徒との初戦闘は、市街を破壊し、少なからぬ死傷者を出したトウジの妹もその被害者のひとりだったのだ。



A.D.2015 ●NERV本部

03 レイ、実験に参加

NERV本部内を移動しながら、ゲンドウとレイが会話を交わしていた。「明日、赤木博士のところに行きます。明後日は学校へ」。淡々と予定を述べるレイ。「学校はどうだ」とのゲンドウの問いにも、レイは「問題ありません」と、ただ無表情に答えた。



「また学校を休んでいたレイ。たが、いつもと同じく学校制服である、服装」



学校での生活にも問題はないというレイの答えに、ゲンドウは「そっか、ならはいい」と頷くのみだった。



A.D.2015 ●第壘中学校

04 トウジ、学校に出席する

2-Aの教室に担任が出欠を取る声が響いていた。本日の欠席者はレイとケンスケである。「ケンスケ、どうしたの?」こっそりトウジに問いかけるシンジ。「新機須賀。今日も戦艦のおっかけや」。出席を取り終えた担任は、当番であるトウジにあとでレイにプリントを届けておくように伝えた。



「内心、妹を心配しているトウジだが、学校ではいつもと変わらない態度を見せていた」



担任に呼ばれてあわてて立ち上がるトウジ。ちなみにケンスケは妙高という戦艦を見物にでかけていた



06 ダミープラグ試作が完成

ついにタミープラグの試作が完成した

ゲンドウとリツコは暗い通路にいた。眼前には巨大な円筒試作されたダミープラグがぶら下がっている。リツコはこれにはレイの人格が移植されていると言った。「ただ、人の心、魂のデジタル化はできません。あくまでフェイク、擬似的なものです。パイロットの思考のまねをするだけの、ただの機械です」「EVAがそこにパイロットがいると思えばいい、シンクロさえすればいい」。さらにゲンドウは、初号機にダミープラグを設置するように命じた。



残った3号機は本部で受け取ることにした。リツコは「サア」と伝える

ゲンドウに、ダミープラグはただの機械だと説明するリツコ。だがこれをさえすればEVAを無人で動かせるのだ



リツコの説明を聞きながらタミープラグを見上げるゲンドウ。その表情からこのうちは伺えない



問題が湧いているというリツコにゲンドウは「まあ、EVAが動けばいい」と答えた

07 リツコ、フォースチルドレンを選出

3号機も数日内には本部に届く予定だった。松代で起動試験を行なう予定だと言うリツコ。それにはテストパイロットが必要だが、ダミープラグはまだ使えない。「4人目を選ぶか」。ゲンドウのつぶやきに、リツコは頷いてみせた。「ひとり、速やかにコアの準備が可能なお子さんがいます」。



実験中のレイの前へ場所を移し、会話を続けるゲンドウたち。



実験終了後、レイに穏やかな目を向けるゲンドウをリツコは冷やかに見ていた。

トウジ、学校に出席する

EVA3号機の日本移送が決定
NERV第2支部、消失

ダミープラグ、試作が完成

リツコ、フォースチルドレンを選出

A.D. 2015

●第壱中学校

08 トウジ、シンジとアスカをからかう

お待ちかねの昼休みにトウジにやけていると、アスカの叫び声が聞こえてきた。どうもシンジが弁当を作り損ねたらしい。「なんや、また夫婦喧嘩かいな」トウジの言葉がクフスに笑いを引き起こす。赤くなったシンジとアスカは、声をそろえて違うと叫ぶのだった。



たわいな、口喧嘩をするふたいをトウジはからかう

「違うよ」「違うわよ」と同時に叫ぶふたり。その息はひたひた

A.D. 2015

●NERV本部

09 リツコ、フォースチルドレンの投入をミサトに告げる

4人目のパイロットの正体にミサトは驚く

3号機の起動実験には4人目のパイロットを使うとリツコに告げられ、ミサトは驚きを隠せなかった。3号機が本部へ来ることになったとたんフォースチルドレンが見つかるなど、あまりにも都合のいい話だ。「マルドゥック機関からの報告は受けてないわよ」「正式な書類は、明日届くわ」。なんでもないことのようにリツコは返す。「またあたしに隠しごとしてない?」。聞いたとしても、リツコは「別に」と短く答えるのみだった。



「よしよしよ、この子なの?」モニターに映された4人目のパイロットを見て驚くミサト



NERVやEVAに関わっていいことはない。それを一番よく知るのには、シンジとミサトは苦悩する



たかみんを生き残るため、は、う、子供供たちが必要なの。リツコは静かに述べる



「キレることはやめろ」と言う。あ、までも冷静なリツコを、ミサトは横目で睨んだ

A.D. 2015

●第3新東京市

12 ゲンドウ、冬月と言葉をかわす

ゲンドウと冬月はリニアトレインから夕暮れの第3新東京市を眺めていた。第七次建設も進み、要塞都市はいよいよ完成間近だ。事態は着実に進んでいる。先の消滅事件に対し補完委員会は動揺していたが、ゲンドウは本部と初号機が残っていればいいと言いつ切った。



街を眺め、ここは腫瘍者の街だと指摘するゲンドウ

予定外の事故に対する上層部の狼狽をゲンドウは、薬を言いつ切った



A.D. 2015

13 ミサト、加持を問いつめる

シンジの学校を調べると加持はミサトに告げた

自販機コーナーで加持がマヤをからかっていると、ミサトがやってきた。「この非常時にうちの若い子に手を出さないでくれる?」。皮肉ったミサトは、地下のアダムとマルドゥック機関についての情報を教えろと加持に迫る。加持はマルドゥックという機関は実際には存在しないことを教え、「コード707を調べてみるんだな」と囁いた。「707……シンジくんの学校を?」。問い返したところにシンジが現れ、話はそこで途切れてしまった。



近寄る加持。ミサトは「へ言っけ」と言うマヤ。加持は「その前にその口を塞ぐよ」とその舌を



険しい顔で加持のもつ情報を要求するミサト。謎が深まるばかりの現状に、彼女は次第に余裕を失っていた



マルドゥック機関を隠しているのはNERV。その、加持は京都で得た情報をミサトに伝えた



リツコの伝言を伝え、来たシンジ。加持はお茶に誘う。僕男ですま、と異議を述べた

2015年

トウジ、シンジとアスカをからかう



リツコ、フォースチルドレンの投入をミサトに告げる



ヒカリ、トウジに置いていかれる



シンジとトウジ、レイの部屋を訪れる



エヴァンゲリオン量産機

EVANGELION MASS PRODUCTION MODEL

使徒と呼ばれる謎の生命体。それらの殲滅を目的とし、E計画(アダム再生計画)により開発が推進された汎用人型決戦兵器・人造人間エヴァンゲリオン。「ロボット」ではなく「人造人間」と呼称されるEVAは、実際にはアダム(リリスと見る向きもある)と呼ばれる「生命の起源」を人類がコピーして作ったものと言われている。そのためフォルムは人間に酷似しており、兵器としては異質なものであった。開発計画開始時からつねに最高水準の科学技術を用いて開発されてきたEVAは、第3使徒が襲来した2015年には13号機までの建造計画が承認されていた。その機体のうち、零~貳号機までは使徒殲滅を職務とする国連の特務機関NERVが所有。3号機は使徒として覚醒したため排除され、4号機は事故によって失われた。「量産機」とされる残りの5~13号機については、本来ならばNERV所有の機体となるはずであったが、これらは人類補完委員会の背後にある組織、秘密結社ゼーレが直轄することとなる。

EVA量産機の基本構造はNERVが所有するEVAと変わらないものであり、「割式モデル」である貳号機を元に開発されたと考えられる。ただし、その外観、機体性能は従来のEVAとは一線を画すものであった。外観は非常に生物的なものであり、機能面では無限の稼働を可能とする動力源——永久機関「スーパーソレノイド機関(Super Solenoid Engine)」通称「S機関」を実装するなど、従来のEVAにない特異性を有していたのである。これら一部を見ただけでも、量産機が生産性の向上のみを目的として「量産」されたものでないことは明白である。

では、9体のEVA量産機が過剰なまでに強力な機能を有していた理由は何なのか。量産機が本来の目的である「使徒殲滅」に使われるものではなく、もともと人類補完計画遂行の鍵となる機体であったと考えれば、おおよその辻褄は合う。ゼーレに対し叛意を示したNERVとの戦いにおいて、量産機は見事にその役目を果たす。さらに、ゼーレ主導による人類補完計画が遂行される運びとなった際、量産機はその発動時に重要な役割を果たした——。そういった活動から推察するに、人類補完計画のシナリオと密接な関係を持っていたものと思われるEVA量産機だが、その真相は藪の中である。

RELATED MATTERS

人類補完計画

- ・ EVA
- ・ NERV
- ・ ゼーレ

【備考】 人類補完計画

第17号機編成

人類補完委員会による指導と監視のもとで、NERVが遂行している計画。詳細を知る者は少なく、実体は謎に包まれている。



EVANGELION MASS PRODUCTION MODEL

特徴的な外観

兵器としては異質ともいえる、人間を模したフォルム。重装甲に覆われた全身——「EVAシリーズ」と呼称されている9体のEVA量産機も、当然、その基本構造はNERVが所有するEVAと変わらない。しかし、初号機以降の機体に実装された肩部装甲を持たず、頭部およびエントリープラグ挿入口はNERV所有のEVAとは一線を画した形状となっている。さらに背面部には体長の2倍程度の主翼が収納されており、その機能面の違いが外見上の差異をも生み出している。量産機という位置にありながらも、結果的に量産化を前提に開発された「制式モデル」の式号機と異なる、非常に特徴的な外観を持つこととなったEVA量産機。その理由は、この機体が対使徒戦を見据えたものではなく、もとより人類補完計画遂行のために開発されたためと考えるのが妥当であろう。

頭部の特異な形状を除いた全体的な外観は、制式モデルである式号機よりも、テストタイプとされる零号機に近いものといえるだろう。



量産機とされるEVA5~13号機。外見上の差異はなく性能面にも違いは見受けられないが、一応は機体番号で区別されていたようだ。

NERV所有のEVAとは異なる各部の形状について

機体ごとに頭部、胸部装甲などに差異が見受けられるEVA。その中でも特にEVA量産機は、頭部、エントリープラグ挿入口、胸部の形状がNERV所有のEVAとは大幅に異なっている。兵器である以上これらの形状変更は、単なるデザイン上の嗜好が起因となるものではなく、構造の違いによる変更と見て間違いないだろう。なお、EVA量産機にはS機関が実装されていたため、詳細が明らかにされていない内部構造についても、NERV所有のEVAと異なる部分が多かったと思われる。

嗜好が起因となるものではなく、構造の違いによる変更と見て間違いないだろう。なお、EVA量産機にはS機関が実装されていたため、詳細が明らかにされていない内部構造についても、NERV所有のEVAと異なる部分が多かったと思われる。

EVANGELION MASS PRODUCTION MODEL

① 頭部
NERV所有のEVAとは異なり機体ごとのバリエーションを持たず、5~13号機はすべて同一の頭部を持つ。なお、眼(光学センサー)はないが、その役目を果たすセンサーシステムを内蔵しているものと考えられる。

② エントリープラグ挿入口
操縦者に配慮する必要がないためか、非常にシンプルな形状となっているエントリープラグ(ダミープラグ)挿入口。ちなみにダミープラグのシステムベースはフィブラスチルドレンである。着カラルと考られている。

③ 背面部
全体的な外観はNERV所有のEVAとはほとんど変わらないが、人間に例えると「肩甲骨」にあたる部分のみは形状が異なっている。これは飛行時に使用する巨大な翼を、機体内部に収納する機構を有しているためだ。

① 口以外のあらゆる外見上の要素を排除したかのような、特殊な形状の頭部。

② 起動時は「KAWORU」と記されたダミープラグを挿入する。

③ 飛行時に、背面部に収納された巨大な翼を展開する。

特徴的な能力と武装

従来のEVAと比較した際、その能力の高さがはつきりと見て取れるEVA量産機。飛行能力、無限の稼働を可能とするS機関の実装と驚異的な再生能力、アンチA.T.フィールド発生能力——これら従来のEVAが持たない能力は、決定的ともいえる機体性能の差を生み出した。初戦においてはEVA式号機により次々と活動停止に追い込まれた量産機だが、S機関によるものと思われる再生能力によって活動を再開。唯一の武装であった双刃の大剣を用い、式号機の打破に成功している。対EVA戦力としての側面を持つ量産機は見事にその役目を果たし、ゼーレ主導による人類補完計画が遂行される運びとなった。



アンチA.T.フィールド発生能力を有するEVA量産機は、初号機を代替とした人類補完計画発動の鍵にもなる重要な機体だった。



巨大な翼を用いた飛行能力

非常に大きな翼により、滑空はもちろん動力飛行(羽ばたきによる継続的な上昇飛行)をも可能としているEVA量産機。翼を羽ばたかせることで推進力を生み出す飛行時の動作は、小型の鳥の飛翔に近いものである。

ちなみに飛行可能な脊椎動物は代償として歩行能力を大幅に制限されるものがほとんどだが、EVA量産機は格闘戦にも対応し得る十分な歩行能力も持ちあわせている。そのメカニズムについては明らかにされていないが、こういった飛行、歩行能力をあわせ持つ生物は、昆虫以外では天使などの「空想の産物」のみと言われている。その事実からも、EVA量産機の特異な能力が窺える。



一面有の装備である、巨大な翼を展開したEVA量産機。ただ、式号機との戦闘時にはなぜか翼を収納し、飛行能力という明らかな優位性を活かそうとはしなかった。

無限の稼働と驚異的な再生能力

EVA量産機は使徒と同様にS機関を内蔵しているため、理論上は無限に稼働可能とされる。アンビカル・ケーブルから供給される電力を必要としないため行動範囲についても制約がなくなり、ようやく自走兵器としての体を成すようになった。さらに、S機関によると思われる驚異的な再生能力をも有しており、兵器としての総合的な能力を見れば、NERV所有のEVAをはるかにしのぐ完成度の機体といえるだろう。



式号機によって一旦は活動停止に追い込まれたEVA量産機たち。しかし、その驚異的な再生能力によって活動を再開し、式号機を沈黙させた。



その他の能力と武装

先に述べた機能の他に、デストロイの形而下化により自我境界線を弱体化させた結果として、A.T.フィールドを消失させる効果——「アンチA.T.フィールド」発生能力を有していたEVA量産機。さらに唯一の武装であった双刃の大剣は、A.T.フィールドに対して絶対的な突破能力を誇る「ロンギヌスの槍」のレプリカであった。これら、従来のEVAと一線を画す能力、武装は、すべて対EVA戦と人類補完計画に焦点を絞ったものだったといえる。



槍の形状をとり、式号機のA.T.フィールドを貫いた大剣。武装としての性能が高いだけでなく、人類補完計画発動時に重要な役割を果たした。

電源ビル

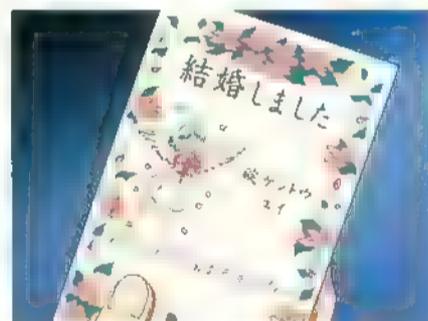
第3新東京市の各所に設置されている偽装ビルのひとつ。EVAに電源を供給するためのアンピリカル・ケーブルが収納されている。ビル表面には「CAUTION 電源注意」という表記がされているほか、区画番号らしき数字も明記されている。なお、市内のアスファルト各所には「CAUTION HIGH VOLTAGE」との表記があり、その付近には電源供給可能な場所があるものと推測される。



アンピリカル・ケーブルの長さ分しか移動できず、というEVAの弱点を補ったため、一定距離ごとに複数設置されていると考えられる。

天使

ユダヤ、キリスト教などにおける神の御使い。第3新東京市が停電した際、「使徒、神の使い。天使の名を持つ、僕らの敵」と、倒すべき敵に天使の名前がついていることに対して碓シンジは疑問を感じている。一方、惣流・アスカ・ラングレーは「ワケわかんない連中」が攻めてくるため「降りかかる火の粉は払いのける」という認識であった。なお、比喩として善や無垢なるものを指し、子供を天使と呼ぶことがある。ANGELも参照



冬月10ノウ、手渡された。三分儀ゲントウと碓ユイの結婚を伝えるハカキ。そこにも天使の絵が描かれていた。

天井都市

ジオフロント内に広がっている地下都市。第3新東京市の地下ジオフロントの天井部分、直径約1.5kmの範囲がこの天井都市となっていると考えられる。また、通常時は地上に存在する都市中央部の高層ビル群も、使徒襲来などの緊急時にはジオフロント内へとすべて収納され、天井都市の一部と化す。



第3新東京市が戦闘形態に移行した際、まるでシャンテリアのようなビル群が見られる。

てんとう虫のサンバ

男女のデュエットグループ「チェリッシュ」が1973年にリリースした大ヒットソング。結婚式の定番ソングとしてよく歌われている。葛城ミサト、赤木リツコ、加持リョウジが招かれた結婚披露宴で歌われていた。



ピンク・黄・青・緑の服を着た女性4人で歌っていた。なお、赤青黄色の服を着たてんとう虫が、結婚するふたりを祝福するよう、サンバを踊り出すという内容の歌詞。

テンベスト

国連軍太平洋艦隊の一隻。第6使徒カギエルへの戦艦2隻による零距離射撃作戦の際、ケーブルのリバースによって浮上を開始したカギエルがテンベストの艦底を通過したとのアナウンスがある。なお、「テンベスト」はシェイクスピアのロマンス劇で、彼の最後の作品と言われる。



実陸中の戦艦と浮上中のカギエルとの接触距離が50mを切ったため、テンベストの艦底を通過した。

電力供給コンセント

EVAに電力を供給する専用のコンセント。三種の電源コンセントとなっており、機体背部に装着する仕組みである。なお、接続はEVAの手作業で行なわれることもあるが、第3新東京市外へ遠征する際などは専用の電源装着トレーラーを用いることが多い。アンピリカル・ケーブルも参照。

ドイツ支部

ドイツにあるNERV第3支部。EVA式号機の建造が行なわれた場所であり、惣流・アスカ・ラングレーは幼い頃からここでEVA操縦者としての訓練をしていたものと思われる。技術力に優れた支部なのか、アダムの復元やS機関の修復が行なわれていた。そのアダムのサンプルは加持リョウジによって碓ゲンドウに横流しされ、S機関は米国第2支部の消失事故により失われてしまい、データのみが残る。また、EVA5、6号機はドイツ支部にて建造されており、そのパーツを零号

機と式号機の修理のために回してもらっていた。なお、NE RVがまだゲヒルンであった頃に入所した葛城ミサトは当初ドイツ支部勤務であり、彼女がアスカと知り合ったのもそのときであろう。



加持もドイツ支部所属であり、アスカの言葉から、ミサトと入れ替ってセカンドチルトレンの担当になったことが窺える。

東京グルメ

第3新東京市のグルメ情報誌。第10使徒サハウィエル戦における無謀な作戦のご褒美として、葛城ミサトはEVA操縦者にステーキを奢ることを約束する。その際の店を探すために、惣流・アスカ・ラングレーがこの本でチェックしていた。



屋台まで網羅、であるよって、肉が食べられないという綾波レイと給料日前の、サトの焼肉店を考慮した結果、とんこつフメン屋に決まった。

とうげんだい

漢字では「桃源台」。第3新東京市環状第7号線の駅のひとつ。碓シンジが家出した際に、終電まで環状線に乗っていた彼が降りた駅。なお、桃源台は神奈川県足柄下郡箱根町にある箱根口・ブウェイの駅のひとつ。標高740mに位置し、観光客などもよく使用する駅である。



この駅以降は回送電車となる旨のアナウンスが流れ、シンジは下車を余儀なくされることとなった。

統幕会議

統合幕僚会議の略称。統合幕僚会議議長と、陸上自衛隊、

海上自衛隊、航空自衛隊の各幕僚長の4名で構成される災害派遣などで各自衛隊の統合運用が必要な際に防衛庁長官の補佐を行なう。ただ、各隊の調整には4者の合意がいるため時間がかかるという弊害を持つ。第9使徒マトリエル襲来に何ら対応をしないNERVを訝しんだ府中の総括総隊司令部の士官が、統幕会議に指示を仰いだものの建設的な意見は得られなかったようで、「こんなときだけ現場に頼りよって」と吐き捨てていた。なお、政府は「逃げ支度」をしていたらしい

頭部装甲

EVAの頭部を覆う装甲兼拘束具。零号機や弐号機と比較して初号機頭部は特殊であり、武士の兜のような形状をしている。また、零号機には多重レンズ仕様の電磁波アンテナが頭頂に組み込まれており、単なる装甲以上の役割を担う



第3使徒サキエルとの戦闘の際、同使徒の自爆により初号機の頭部装甲が融解破壊し、頭蓋部分が剥落したが、戦闘後に回収されている

時田シロウ

日本重化学工業共同体が建造した、対使徒戦闘用の巨大人型自走兵器J.A.(ジェットアローン)の開発責任者。赤木リツコは、彼のことを「自分を自慢し誉めてもらいたがっている。大した男じゃないわ」と評していた。J.A.完成披露記念会において、リツコが矢継ぎ早に浴びせる質問に対しNERVへの皮肉でもって返答、彼女を会場中の笑いものにする。その後の起動テストで制御不能に陥ったJ.A.に対して何ら対処判断できず、J.A.停止のためのパスワードを口外するための許可を上司に伺うという、規則や権限に固執する官僚的な行動を取る。結果的に彼の許可申請は関係者間でたらい回しにされ、最終的に命令書発行にこぎつけるものの、もはやJ.A.の炉心融解阻止に間に合うタイミングではなかった。結局は、独自に行動を起こした葛城ミサトに対し自己判断でパスワードを教え、J.A.停止を託す



ミサトやリツコにとって時田の第一印象は最悪なものであったがJ.A.暴走後の対応を見るに、官僚的ではあるものの悪い人物ではないよってである

徳さん

ゲーム「新世紀エヴァンゲリオン 鋼鉄のガールフレンド」に登場するオリジナルキャラクター。作中に登場する喫茶店「ビッグ・アップル・ダイナー」のマスターで、本名の苗

字は徳永。下の名前は不明。霧島マナのことで自暴自棄になった碓シンジは、コーヒーをカブ飲みして擬似的に酔いつぶれ、そんな彼を徳さんが心配するという光景が見られる。登場作品「新世紀エヴァンゲリオン 鋼鉄のガールフレンド」

独12式自走臼砲

自走臼砲とは、大口徑の臼砲を自走可能な車体に搭載したものの。大出力のレーザー砲が搭載され、無限軌道によって自走するようだが、NERV本部では列車の車両に搭載されて列車砲のように運用されている。第5使徒ラミエル襲来時に、作戦部長の葛城ミサトはこの自走臼砲を用いた実験を行なうことにより、一定距離内の外敵を自動排除するというラミエルの能力や攻撃パターンを確認した。その結果、レーザー砲の一撃は肉眼で確認できるほどの強力なA.T.フィールドで防がれ、使用された自走臼砲は直後にラミエルの反撃を受け消滅してしまう。なお、この12式自走臼砲のルーツは第2次世界大戦時にドイツで6両が開発されたカール自走臼砲にあると思われ、その中には「アダム」「エヴァ」と名づけられたものが存在する。



当然、通常兵器の火力では使徒のA.T.フィールドを貫くことは不可能だが、ラミエルの攻略においてこの自走臼砲を用いた実験は欠かすことのできないものであった

特殊監察部

NERVの部署のひとつで、加持リョウジが所属。超法規的な運営が為されるNERV内の監督査察を行ない、組織内の腐敗を防ぐ自浄作用を担う部署と推測される。

特殊装甲板

第3新東京市とゾオフロントの間を隔てる全22枚の装甲板。中樞を防御するものとしてかなりの強度を持っているものと推測される。第3使徒サキエルの怪光線の2撃目で第8装甲板が損壊、3撃目で残りすべての装甲板が貫通された。また、第5使徒ラミエルのシールドにより10時間ほどで穿孔されている

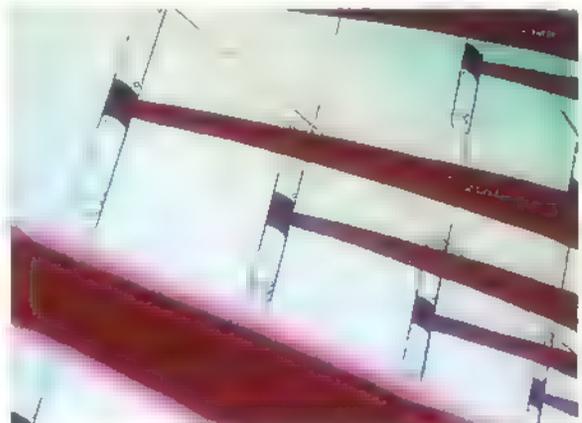


第14使徒ゼルエルの怪光線は、18枚の装甲板が一瞬で損壊するほどの威力を持っていた

特殊ペークライト

熱硬化性樹脂のこと。EVA零号機の起動実験の際、制御不

能に陥った同機の動きを止めるために使用された。「特殊」の名を冠しているとおり、既存のペークライトとは異なる成分で構成されていると推測される。ペークライトを参照



NERV本部の第2実験場に配備されていた特殊ペークライト。多数の噴出口より一斉に射出され、EVAの動きを即座に止めるため速乾性の高いペークライトだと思われる

特別非常事態宣言

使徒が襲来した際に発令される避難勧告。これにより住民は指定のシェルターへ避難するようにアナウンスされる。第3使徒サキエルと第4使徒シャムシエルが襲来した際に、東海地方を中心とした関東、中部全域に発令された。また第14使徒ゼルエルの際は東海地方を中心に発令されている



特別非常事態宣言の発令と共にすべての道路閉鎖や交通機関も運行が停止する。同時、報道管制も敷かれるようだ

独房

NERV内の施設のひとつ。NERVにおいて重大な犯罪行為を行なった人間が入れられる場所と思われる。碓シンジがEVA初号機に立て籠もった際に、命令違反、EVAの私的占有、そして稚拙な恫喝などの犯罪行為と認定され、強制排除後に収容されていた。また、赤木リツコはダミーシステムの破壊後に投獄されているが、そこはシンジのいた場所とは異なる造りであり、独房は何種類か存在することが分かる。



リツコがいた独房は奥に伸びた横長の造りで、簡易ベッドとトイレが備わっている。また、面会の際などは壁面にNERVのマークがある別室で行なうようである

特例582

第11使徒イロウルによりハッキングでメルキオール及びバル

ターゲットを乗っ取られたMAGIシステムが、自律自爆を決議した際に出した特別命令。「特例582発動下のため、人工知能以外によるキャンセルはできません」とあり、自爆決議の撤回を行なうことは人工知能、つまりMAGIにのみ可能であるという宣言。赤木リツコによりイロウルに逆ハッキングを仕掛け殲滅させることにより、自爆決議と共に撤回された。

特科大隊

強羅防衛線よりNERV本部に侵攻し、本部施設の直接占拠を目論んだ戦略自衛隊の一部隊。なお、特科とは自衛隊用語で砲兵を指し、火砲により戦闘支援を行なう兵科である。大隊とは軍隊編制上の戦術単位のひとつで、連隊と中隊の中間の部隊。通常は単一の兵科で編制されている。また、大隊は独立活動が可能とされるうちで最も小さな戦術単位だが、師団、旅団、連隊を構成する一部となるのが通常。



榴弾砲やロケット砲などを装備し、高い火力を持つ野戦特科が本部直接占拠に投入された

特訓

能力を短期間で向上させるため、平素以上の量や内容をこなす特別な訓練のこと。第7使徒イスラフェル殲滅のために欠かせなかった、二点同時過重攻撃作戦におけるEVA2機のユニゾン攻撃。そのため曲に合わせた攻撃パターンを6日という短期間でマスターするべく、碓シンジと惣流・アスカ・ラングレーが行なった。葛城ミサトの提案で形から入ることになったふたりは、ペアルックにて共同生活を行ないつつ特訓に挑む。しかし、特殊訓練器によってユニゾンの訓練を行なうも、前半3日はふたりの息が合わず作戦の成功が懸念された。ここにおいて作戦部長たるミサトは一計を案じる。シンジ相手の訓練にやる気を見せないアスカに対し、綾波レイとシンジが見事にユニゾンする様子を見せて彼女のプライドを刺激、負けん気を起こさせてやる気を導き出すことに成功。これはアスカの気質を理解したミサトの手腕といえよう。その結果、後半3日で完璧なユニゾンをマスターし、使徒殲滅を達成した。なお、この特訓という名の共同生活を通じてシンジとアスカの関係は進展を見せる



曲に合わせた攻撃パターンを覚えるだけでなく、ユニゾンのためにも互いの同調することが特訓の肝であった

豊橋市跡

豊橋市は愛知県の南東部にある都市。東三河地方の中心都市であったが、セカンドインパクトにより壊滅的な被害を受けたと思われる。2002年時、住人は生活の場を船上に移し、

大型タンカーを中心とした町と、水没ビルを中心とした町とが存在。なお、セカンドインパクト後の混乱に満ちていた2002年、冬月コウゾウはここでモグリ医者をしていたことがあった



大型タンカーとビル群に寄り添うよう小舟が葉まり町を形成している。上の船一階は「油臭さが抜けなくて。どうも好きになれんよ」と冬月は語っていた

トランジスタシス

生物学用語のホメオスタシス（今を維持しようとする力）の対比として赤木リツコが語った架空の概念。「今を変えようとする力」と彼女は称した。ホメオスタシスも参照



「生きる、てことは、変わる、てことさ」と葛城ミサトに語る加持リョウジは、男女関係、ならそえてトランジスタシスを「男」のイメージにとらえていたようだ

トレーニングプール

NERV本部にあるトレーニング用屋内プール。スタッフに開放されているフィットネス施設と思われる。戦闘待機のため修学旅行に行けなかった碓シンジ、惣流・アスカ・ラングレー、綾波レイがくつろいでいた。このときシンジが勉強していた熱膨張の問題が、第8使徒サンダルフォンを殲滅する手だてとなる



シンジは理科の勉強、アスカはスクバダイビング、レイは黙々と泳いでいた

トレーラー

運転席と荷台や客車が分離できる構造を持つ、牽引自動車の部分のひとつ。前方の運転席はトラクタ、後方の荷台や客車などはトレーラーと呼ばれる。ヤシマ作戦においてEVAと操縦者が共に二子山まで移送された際、碓シンジと綾波レイはトレーラーの中でプラグスーツに着替えていた。内部は簡易休憩所などに使うよう造られているようで、開閉式の椅子のほか電動式のタペストリーで中央から仕切ることが

可能である。



第3新東京市から遠く離れた土地で戦闘を行なった場合は当然更衣室なども用意されてないのて、着替える用のトレーニング用更衣室が用意されているよ

CATEGORY な

内在化

心理学用語で、外にあるものを自分の内に取り込み、身に付けて変化させる過程を指す。例えば、外的なものである世の中の中の規範など社会性を身に付けること。EVA初号機に取り込まれた碓シンジの内面世界において見られる文字であり、この「内在化」は2度使われている。なお、その中で見られる文字は、「綾波レイ、碓ゲンドウ、碓ユイ、父、母、子、他人、自分、自我、偽善、欲求、抑圧、弱者、同一化、自己、体内化、乳房、劣等感、意志、共生、孤独、補償、現実、理想、内在化、心身、恐怖、不安、価値、依存、逃避、疎外、喪失、口唇期、強迫観念、内在化」と順に続く。中でも「自分、偽善、孤独、理想、恐怖、逃避」は2種類の書体デザインで、「碓ゲンドウ、父、他人、抑圧、劣等感、孤独、内在化、恐怖、不安、疎外、強迫観念」は白抜き文字で表現されている



「内在化」という文字のみ、黒抜きの文字と白抜きの文字の両方で表現されている

内罰的

心理学用語で、悪い出来事が起こった際、その原因が自分にあると考えて自己を責める傾向を指す。自罰的ともいう。惣流・アスカ・ラングレーは、条件反射的に謝る碓シンジを「内罰的すぎるのよ、根本的に！」と評した。一方、葛城ミサトは「それもシンちゃんの生き方」と語っている。な

お、悪い出来事の原因は自分以外の他人にあると考えることを外罰的という。



何かとすぐに謝るシンジの態度を「人に叱られないように条件反射的に謝っている」と語るアスカ

内部電源

EVA内部に備えられた非常用の体内電池。蓄電容量の関係で、フルで1分、ゲインを利用してせいぜい5分しか稼働できない。また、生命維持モードの場合16時間（EVA操縦者の身は）持つ。赤木リツコは「これが私たちの科学の限界ってワケ」と、シミュレーターで訓練する碓シンジに話していた。

長尾峠

神奈川県と静岡県の県境、箱根外輪山の西側にある標高911mの峠。乙女峠と同様に仙石原と御殿場を結び、「かながわの景勝50選」のひとつに数えられる景観美が広がる戦略自衛隊がNERV本部の直接占拠に着手した際、師団長が二子山に次いで封鎖を急がせていた



第3新東京市の国道138号線にある歩道橋の行き先表示には長尾峠の文字が見られる

渚カヲル

マルドゥック機関を介することなく人類補完委員会、実質ゼーレより直接NERVに送り込まれたフィフスドレン。第15使徒アラエル戦で重度の精神的ダメージを受けた惣流・アスカ・ラングレーがEVA式号機にシンクロ不可能となったことを受け、彼女の代替として配属された。綾波レイと同様に一切の経歴は抹消されている存在だが、生年月日はセカンドインパクトと同日の2000年9月13日とされている。彼がNERVにやってきてすぐに行なわれたシンクロテストでは、コアの変換なしで式号機とシンクロするという能力を示しスタッフを驚愕、困惑させた。実のところ彼は自らの意志でシンクロ率を自由に設定することができ、理論上ありえないことであったがために、伊吹マヤはこの事実を公表できないでいた模様。また、この頃に友人すべてと疎遠になってしまった碓シンジに近づき、短期間で友人関係を築いているほか、綾波レイともわずかながら接触を試みている。カヲルの正体は第17使徒タブリスであり、友人となった存在が実は敵であったという事実はシンジの心に大きな傷を与えた。第17使徒及びタブリスも参照。



謎めいた言動でシンジを困惑させた不思議な少年。ストレートに好意を表明し、短期間でシンジの友達と呼べる存在になった

夏の太陽

第3新東京市立第壱中学校2-Aにある書道作品の題字。作品が数人分貼ってあることから、夏休みが授業の課題で書いたものであろう。セカンドインパクト以降、常夏の気候となった日本に四季は存在しないものの、季節の区分は脈々と存在しているということなのかもしれない。



惣流・アスカ・ラングレーが転校してきた9月21日（月）、教室の後ろに貼ってあるものが見える。23日の秋分までが夏にカウントされるので、時期的にはセナ

77号線

NERV本部における非常用の回線。第3新東京市が停電した際に試されたが使用できなかった。最も確実に回線が確保されていると考えられる非常用回線すらつながらないことで、停電は人災だという線がより濃厚になったと考えられる。



青葉シゲル席のみにある4つの回線。その中でも緊急用の赤い電話機すら通じなかった

生写真

相田ケンスケが隠れて撮影し、鈴原トウジと男子生徒に売りさばっていた惣流・アスカ・ラングレーの生写真のこと。ひときわ目立つ容姿から男子生徒に絶大な人気を誇るアスカの写真を売るといふ商売は、ケンスケらにとって良い小遣い稼ぎになっていたようである。なお、注文数が書かれた申し込み書は少なくとも2枚以上あり、1〜36番までナンバリングされた種類のうち、「これがH♥」「グー!!」との書き込みがある8番は24枚売れていた。一番売れていたのは「good」の書き込みがある34番で31枚も売れた様子。値段は大サービスの1枚30円。注文数を見ると最低でも377枚売れていることが分かり、アスカの人気のほどが伺える。



「写真にあの性格は、あらへんからなあ」とはトウジの弁。アスカの性格を知り、既に容姿に興味を持たなくなったケンスケらならではの商売である。

涙

第貳拾参話のサブタイトル。英文サブタイトルは「Re: III」。綾波レイが初めて流し、「3人目」に受け継がれた涙のほか、EVA式号機とシンクロできず涙する惣流・アスカ・ラングレー、レイが自爆して果てたことでの葛城ミサトの涙、レイの最期が哀しいのに涙がでない碓シンジ、碓ゲンドウに裏切られたことによる赤木リツコの涙、それぞれ異なる涙を指していると思われる。ちなみに「Re: I」は第伍話、「Re: II」は第六話。これら3話を比較するとレイの感情の動きが見てとれよう。そして、レイのエピソードを核とした「Re:」シリーズは、この第貳拾参話でレイが自爆することにより終わりを見せる。



無感情であるレイは、使徒の侵食をきっかけに自らの心を知り、涙を流す。シンプルではあるが「話のテーマを何よりもはっきりと表したサブタイトルとなっている

鳴らない、電話

第参話のサブタイトル。葛城ミサトが碓シンジに渡した携帯電話だが、彼が第3新東京市立第壱中学校に転校してから2週間経っても友人からかかってくることはなかった。英文サブタイトルは「A transfer」。これは転校、もしくは転校生の意で使用されているものと思われる。また、「transfer」という単語は実験心理学において「転移」の意味で使用される。これは、対象が過去に学習したことがのちの学習に影響を及ぼすことを指す



殴ってしまったことをメソクに謝るため電話をかけようとする鈴原トウジが結局は断念（しんま）

第9話「瞬間、心、重ねて」

初の水際迎撃作戦。シンジとアスカの交流。2体のエヴァによる連携戦闘。

第10話「静止した、闇の中で」

機能停止してしまった研究所。
電力を失った現代文明の脆さ。
使徒迎撃へのタイム・サスペンス

第11話「マグマ・ダイバー」

使徒に対し、初の攻勢を見せるネルフ。
使徒捕獲のため特殊装備で溶岩内に潜るエヴァ。
灼熱のマグマ内での戦闘。

第12話「18秒の奇跡」

第3新東京市へ飛来する撃墜不能の使徒（大型爆弾）。
絶体絶命の危機。ミサト達の捨て身の作戦。

第13話「恐怖の後に来るものは」

増長したシンジを待ち受けていた大敗北。大破するエヴァ初号機。
機体内に閉じ込められるシンジ。

第14話「死に至る病、そして」

大破した初号機からの救出劇。極限状況での人間ドラマ。
真の恐怖を知り、絶望を味わうシンジ。

第15話「シンジ、ふたたび」

放心状態からふたたび、自分の意志でエヴァに乗るシンジ。
大改造される初号機。



KEYWORD

第12話「18秒の奇跡」

本編の第九話から第拾弐話にかけては、内容、エピソード順共ほぼ企画書通りに進行。いずれも基本プロットとしてはEVAとNERVの活躍を存分に見せることを前提としたエンターテインメントといえるだろう。ただし、その中で本編における第拾弐話では、セカンドインパクト当日の南極やゲンドウと冬月が南極へロンギヌスの槍を回収に向かうシーンが加えられており、後半へつなげるエピソードもしっかりと抑えられている。



本編の第拾弐話では、1クール目の最終エピソードという意味合いもあってか、セカンドインパクトの様子と共に幼い頃のミサトがその現場となった南極から脱出するシーンを導入部に組み込んでいる。

第拾弐話より、機能を停止した本部内のアスカたち。電力供給を絶たれたNERV本部の脆さを見せるエピソードも企画書通りである。



企画書通り第九話では、犬塚の仲のシンジとアスカが気持ちをひとつにするまでが描かれている。



D型装備の弐号機が活躍する第拾話。溶岩流内でのEVA対使徒の戦いが見せ場となっているエピソードである。これも企画書内では第11話として予定されていた。



大気圏外の使徒との対決を描く本編第拾話。企画書では上空からの使徒を要撃するという要素のみ書かれ、サブタイトルも異なっていた。

KEYWORD

第13話「恐怖の後に来るものは」

本編と企画書上でのシリーズ構成と最初に大幅に異なる箇所がシリーズの折り返し点となる第13話から第15話である。企画書段階では、この3話で1エピソードとして構成されており、シリーズ中盤のクライマックスとなっていたことが読み取れる。内容は本編第拾六話に近いものであったようだ。なお、実際の第拾参話はMAGIが使徒にハッキングされるエピソード、第拾四話は軍事レポート仕立てでありつつ、レイの心象的視点も加えた総集編となった。



総集編の第拾四話だが前半の軍事レポート的なパートでは、初めて使徒の名前が明らかにされるなどの付加情報が散りばめられた。後半のレイの心象風景描写では「エヴァ」ならではの、ある種哲学的要素がフィーチャーされた手の込んだ内容となっている。



第拾六話に登場した使徒レリエル。初号機をその体内に取り込んでしまう。

シンジが自信と増長を混同してしまう第拾六話。企画書では第13話として考えられていたものである。



レリエルに取り込まれた初号機の救出作戦を計画するNERVスタッフの面々。企画書ではこの救出作戦だけで1話費やす予定であった。ある意味、実際の第拾九話、第拾弐話と類似した構成であるといえるであろう。

KEYWORD

第15話「シンジ、ふたたび」



第15話のシンジが自らの決意でEVAを駆り使徒へと挑むエピソードは、本編では第拾九話に組み込まれている。

大破した初号機が大改造されパワーアップする内容が想定されていた第15話は、シンジが自ら決意してEVAに搭乗する、本編第拾九話の要素も散見される。なお第13話～第15話に相当する第拾六話では初号機が自律起動して使徒を撃滅することで、EVAへの畏怖を煽っている。



第拾六話では、企画書第14話のシンジがEVA内部に閉じこめられるエピソードが見られる。

シンジと使徒が接触するエピソードは、企画書第16話にその記述が見られる。



使徒内部から救出されたあと、ベッドで目覚めたシンジ。



本編第拾九話。ゼルエルの攻撃を受けて大破した初号機。のちの第拾話では、初号機はハードウェア的には修復されるのみで「大改造」こそされないが、使徒からS機関を自ら取り込んだことで、機能的にはパワーアップすることとなる。もし、企画書通りに大改造されていたならば、初号機はどのような姿になっていたのだろうか？

第16話 「敵の心の中で」

敵に捕獲され、初めて使徒と会話を交わすシンジ。
使徒の目的等一部が解明する。

第17話 「アスカ、初デート」

初めて遊園地に行くアスカ、ミサトの昔話など全編これ、ラブコメ話。

第18話 「命の、選択を」

使徒の謀略により、親友の乗ったエヴァ3号機と戦うシンジ。彼の取る選択。

第19話 「男の、戦い」

シンジをかばい重傷をおってしまうアスカ。
彼女に対し、男、を自覚するシンジ。エヴァ初の空中戦闘。加持の死。

第20話 「ネルフ、誕生」

独国から届くエヴァ5号機。
15年前の回想話。
バールを脱ぐ死海蒸発事件。ネルフやエヴァの開発秘話。
シンジの父親の話。

第21話 「せめて、人間らしく」

海底で朽ち果てた戦艦を舞台にした水中戦。敵の精神攻撃を受けるシンジ。
シンジの母親の話。

第22話 「猫と転校生」

初登場する等身大人間型の使徒（猫を連れてた美少年）。
研究所内の侵入を許してしまうネルフ。人型使徒の破壊に戸惑うシンジ。
明らかにされる研究所の隠された秘密。



KEYWORD

第17話「アスカ、初デート」

企画書におけるストーリー全体の流れの中では、第17話は物語が佳境へと突き進む直前に挿入された息抜きのエピソードのようだ。この第17話の構成要素は分割され、本編では第拾話の冒頭にアスカと加持のデート、第貳拾壹話にミサトの過去（おそらく学生時代のことと思われる）が、それぞれ組み入れられている。



第拾話より。加持と水着を選びに出かけるアスカ。加持と一緒にいること自体が楽しくて仕方がない雰囲気である。

第拾話より。修学旅行には行けなかったが、加持と一緒に買った水着を着て、アスカはそれなりにこの満悦の様子。



第拾話、アスカと買い物に出かける加持。アスカの心情と反し、加持としては保護者の気分であらう。



第貳拾壹話より、学生時代のミサト。現在同様おしゃべりで明るい性格として描かれている。



学生時代の加持。当時つき合っていたミサトに対しての想いに染りはなかったようだ。

KEYWORD

第19話「男の、戦い」



実際の第拾九話でも、アスカは使徒に向かい大敗を喫する。しかし、シンジのためではない。

派手なバトルが満載のクライマックスとして位置づけられている第拾九話。企画書では、「シンジが「彼女（アスカ）に対して男を自覚する」とのセンテンスがあり、ふたりの関係性の変化も盛り込む予定もあったようだ。これは旧劇場版におけるシンジとアスカが生き残るラストシーンを彷彿させるものがあり、かなり興味深い。また、企画書では、この第19話で初号機が空中戦を演じるとされている。しかし、本編中ではEVA用空中戦装備は未登場に終わっている。



第拾九話に登場する使徒ゼルエル。その凄まじいまでの攻撃力の前には、必死に戦った式号機も撃破されてしまう。

シンジは人々を守る決意を固めてEVAに乗り込む。男の自覚のあり方が企画書とは微妙に異なっている。

KEYWORD

第20話「ネルフ、誕生」



NERV設立秘話は、本編では第貳拾壹話で描かれた。冬月の回想モノローグを基本として物語は進行している。



第貳拾壹話ではゲンドウの過去についても語られるが、それは彼自身の回想ではない。



EVAの根幹に関わる人物、シンジの母、碇ユイが登場するのも第貳拾壹話のトピックである。

企画書段階からシリーズ後半にNERVの設立秘話を語る話が考えられていたようだ。また、企画書内には「独国から届くエヴァ5号機」との記述があり、さらに第18話に初号機 VS 3号機の話が想定されている点からも、シリーズ後半には新型のEVAが次々と登場する予定だったのかもしれない。

KEYWORD

第22話「猫と転校生」



カワルは企画書にもその記述がある物語の重要人物である。OPにもサブリミナル的なカットの中で登場している。

レイに「同じ存在」であると話すなど、第貳拾四話のカワルのセリフは作品の謎の解答を示唆するものが多い。



本編でカワルが登場するのは第貳拾四話。ゼーレによって送り込まれたカワルは、シンジと心を通わせる。シンジにとって皮肉にも、初めて心の壁を取り去ることが出来た人間がカワルであった。



第貳拾四話のクライマックス、カワルを握り潰す初号機のカットは約60秒間動きがない。企画書にもあるシンジの深い苦悶の表現であった。



企画書第22話はカワルの本館内への侵入と、本館に隠された秘密の露呈という第貳拾四話に通底する要素が示されている。